

2018年度(第68回)北海道倶楽部対抗競技

開催日：2018年8月22日(水)・23日(木)

会場：クラークカントリークラブ(西・東)

本競技においてはこのローカルルール・競技の条件と日本ゴルフ協会ゴルフ規則を適用する。
別途規定されている場合、または適用規則が明示されている場合を除き、ローカルルールまたは競技の条件の違反の罰は、2打。

ローカルルール

1. アウトオブバウンズは白杭または白線で定める。(定義 40)
2. No.1(西コースNo.1)ホールのグリーン右下のラテラル・ウォーターハザード内に、そのホールでプレーした球が止まった場合は、ゴルフ規則 26-1 に基づく処置、または追加の選択肢として 1 打の罰のもとに球を指定ドロップ区域にドロップすることができる。
この規定に関して指定ドロップ区域に球をドロップまたは再ドロップする場合、付属規則 I (A)6 注が適用となる。
3. 異常なグラウンド状態
 - (a) 修理地は白線と青杭で標示する。
 - (b) 張り芝の継ぎ目：付属規則 I (A)3e を適用する
スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(その芝自体を除く)は修理地とみなされる。しかしながら、継ぎ目がプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。球がその継ぎ目の中にあるか、触れている場合、またはその継ぎ目が意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。張り芝の区域内のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目とみなされる。(ゴルフ規則 164p 参照)
 - (c) パッティンググリーン前後のペイントマークとスルーザグリーンの芝草を短く刈られた区域にあるヤーデージマーキングのペイントが球のライや意図するスイング区域の障害となる場合(スタンスの障害は除く)、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。
4. 次のものは動かさない障害物とする
 - (a) 排水溝
 - (b) 動かさない障害物に接している他の動かさない障害物は一体の障害物とみなす。
 - (c) 動かさない障害物に接し白線で繋がれた区域はその障害物の一部とみなす。
 - (d) 動かさない障害物によって囲まれた造園区域(花壇など)はその障害物の一部とみなす。
5. コース内にある防球ネットによる障害(ゴルフ規則 24-2a)のため、ゴルフ規則 24-2b の救済を受ける場合には、その障害物の上を越えたり、中や下を通さずにニヤレストポイントを決定しなければならない。
6. 次のものはコースと不可分の部分とする
 - (a) 巻網、ワイヤ等で樹木に密着しているもの。
 - (b) ウォーターハザード内にある護岸用の構造物。
7. パッティンググリーン上の芝張り替え跡は古いホールの埋め跡と同じステータスを持ち、規則 16-1c に基づき修理することができる。
8. パッティンググリーン上で球が偶然に動かされた場合
規則 18-2 と規則 20-1 は以下の通りに修正される。
プレーヤーの球がパッティンググリーン上にある場合、その球やボールマーカーがプレーヤーやパートナー、相手、またはそのいずれかのキャディーや携帯品によって偶然に動かされても罰はない。
その球やボールマーカーは規則 18-2 や規則 20-1 に規定されている通りにリプレースされなければならない。
このローカルルールはプレーヤーの球やボールマーカーがパッティンググリーン上にあり、いかなる動きも偶然である場合にだけ適用する。
注：パッティンググリーン上のプレーヤーの球が風、水あるいは重力などの他の自然現象の結果として動かされたものと判断された場合、その球はその新しい位置からあるがままの状態プレーされなければならない。そのような状況で動かされたボールマーカーはリプレースされることになる。

9. 規則 6-6d 例外(スコア誤記)

規則 6-6d 例外は次の通り修正される。

どのホールであっても、競技者がスコアカードを提出する前には罰を受けていたことを知らずに 1 打または複数の罰打を含めなかったために、真実より少ないスコアを提出していた場合、その競技者は競技失格とはならない。このような状況では、その競技者は該当する規則に規定されている罰を受けるが、規則 6-6d に違反したことに対する追加の罰はない。該当する罰が競技失格である場合にはこの例外は適用しない。

競 技 の 条 件

1. 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

2. 使用クラブと球の規格

(1) プレーヤーが持ち運ぶドライバーは R&A によって発行される最新の適合ドライバーヘッドリスト上に掲載されているクラブヘッドを持つものでなければならない。

この条件に違反するクラブでストロークを行ったことに対する罰は競技失格。(ゴルフ規則 176p 参照)

(2) 溝とパンチマークの規格 裁定 4-1/1 『2010 年 1 月 1 日施行の溝とパンチマークの仕様とその競技の条件』を適用する。(付属規則 II 5c 注 2 ゴルフ規則 198～201p 参照)

(3) プレーヤーの使用球は R&A 発行の最新の公認球リストに載っているものでなければならない。

この条件の違反の罰は競技失格。(ゴルフ規則 177p 参照)

3. プレーのペースについて (ゴルフ規則 6-7 注 2)

各ホールのプレーに許される時間の限度を記載した「タイムパー」をスタート時に配布するので、これに遅れないこと。特別な事情もないのにこの時間より遅れた場合(アウトオブポジション)、ストロークに要する許容時間を個別に計測する。

※アウトオブポジションに該当しなくとも遅れが生じていると委員会が判断した組に対してはペースの回復を求めることがある。

※特定の選手のペースが著しく遅い場合はその組がアウトオブポジションに該当しなくとも、その選手に通知した上でショットに要する時間を計測し、罰則を適用することがある。

(1) アウトオブポジションの定義

次の両方に当てはまった時、その組はアウトオブポジションとなる。

(a) あるホールのプレーを終えた時点で、スタートからそこまでの実際の所要時間の合計が、「タイムパー」に記載された時間をオーバーした場合。

(b) 第 2 組以降の組では、前の組との間隔がスタート時点での間隔時間を超えた場合。

(2) アウトオブポジションとなった場合の措置

あるホールを終えてある組が特別な事情がないのにアウトオブポジションとなった場合、競技委員はホールとホールの間でその組全員にアウトオブポジションとなったこと及び次のホールから各プレーヤーの全てのストロークに要する時間を計測することを通知する。委員会がその組の各競技者のストロークに要する時間を計測し (3) の許容時間を超えた場合、プレーヤーに (4) の罰則が適用される。

例外：特別な事情(ルーリングや紛失球等)があったと委員会が判断した場合、委員会はその組に対して前の組との間隔を縮めるように求める。その結果、合理的時間内に遅れを取り戻すことができれば、各競技者のストロークに要する時間は計測しない。

(3) ストロークに要する許容時間

原則：40 秒

例外：パー3 ホールにおいて最初にプレーする者、パー4 とパー5 のホールにおいて第 2 打地点から最初にプレーする者、パッティンググリーン周辺やパッティンググリーンの上で最初にプレーする者のショットの許容時間は 50 秒とする。

注：ストロークに要する許容時間の計測は、そのプレーヤーの順番が回ってきた時に開始される。

(4) 罰則

バッドタイム 1 回目－警告、バッドタイム 2 回目－1 打の罰、バッドタイム 3 回目－更に 2 打の罰、バッドタイム 4 回目－競技失格。

注：アウトオブポジションとなった組は、その後で遅れを取り戻しても、そのラウンド中のバッドタイムの回数を持ち越す。

4. 競技成立の条件

天候、その他の事情により、6コースあるいは一部のコースが2ラウンドの競技が完了しない場合の処置。

(1) 全参加クラブの選手8名の内7名が最低1ラウンドのプレーが終了しなければ、競技は不成立とする。

(2) A、B、Cグループの各2コースの競技成立の状況が異なる場合

①両コースとも1日だけプレー可能の場合

1ラウンドで競技成立とする。

②1コースは2日間プレー可能だが、1コースは2日間ともプレー不可能の場合

プレー可能であったコースでプレーした競技者7名のスコアで競技成立とする。

③1コースは2日間プレー可能だが、1コースは1日だけプレー可能の場合

2ラウンド完了した競技者4名と1ラウンドだけプレーした3名のスコアで競技成立とする。

この場合、2ラウンド完了者に競技失格があったときはそのチームは失格とする。

④早朝の天候不良などで、午前の部のスタートが遅れた場合

午後の部の競技終了が不可能と判断した時点で、午後の部の競技を取り消しとする。

(3) 競技開始時刻の変更による競技成立の時限

第1日目 最初の組のスタート時刻 正午までとする。

第2日目 最初の組のスタート時刻 正午までとする。

(4) その他の状況が生じた場合、委員会が決定する。

5. プレーの中断と再開

① 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合に、同じ組のプレーヤー全員がホールとホールの間でいたときは、各プレーヤーは委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1ホールのプレーの途中であったときは、各プレーヤーはすぐにプレーを中断しなければならず、その後委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。プレーヤーがすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、そのプレーヤーは競技失格となる。

② プレーの中断と再開の合図について

険悪な気象状況によるプレーの即時中断：1回の長いサイレン。

通常のプレー中断：断続的なサイレン、または本部より競技委員を通じてプレーヤーに連絡する。

プレーの再開：1回の長いサイレン。

6. ホールとホールの間での練習禁止

ホールとホールの間では、プレーヤーは最後にプレーしたホールのパッティンググリーン上やその近くで練習ストロークをしてはならないし、球を転がすことによって最後にプレーしたホールのパッティンググリーン面をテストしてはならない。この条件の違反の罰は、『付属規則 I (B)5b』を適用する。(ゴルフ規則 181p 参照)

7. キャディー

正規のラウンド中、プレーヤーが委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。この条件の違反の罰は『付属規則 I (B)2』を適用する。(ゴルフ規則 179p 参照)

8. スコアカードの提出

スコアリングエリア方式を採用する。

9. 競技終了時点

本競技は、各会場で最終日に全員のスコアが掲示された時点をもって終了したものとみなす。

注 意 事 項

1. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、倶楽部ハウス内並びにスターティングホールのティーインググラウンド付近に掲示して告示する。
2. パッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
3. ゴルフ規則 8 の「注」記載の『アドバイスを与えることのできる者の指名』は競技の条件の中に記載されていない。
4. 正規のラウンド中、競技者はストロークをしたりプレーする上で、競技の援助となるような情報が得られる機器や異常な携帯品を使用すれば、ゴルフ規則 14-3 の違反(2 罰打)更に同じ違反があった場合(競技失格)となるので注意すること。
5. 練習は指定練習場で行い、打球練習場では備付の球を使用し、スタート前の練習は1人コイン1枚(30球)を限度とする。

6. 落下地点の安全確認およびプレーの促進のためフォアキャディーを配置し、旗によって連絡する。
赤旗 : 落下地点に前の組がいるのでプレーしてはいけない。(必ず指示に従うこと)
白旗 : 落下地点があいているのでプレーしてよい。
青旗 : アウトオブバウンズまたは紛失の恐れがある。(暫定球のプレーを勧める)
7. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消すことができる。
8. 競技委員会は規則 33-7 に基づき、エチケットの重大な違反があったプレーヤーを競技失格とすることができる。

競技委員長 佐藤 始